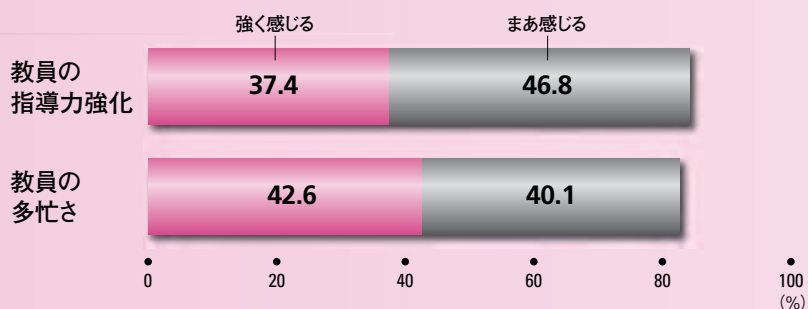


# 新課程を 機に 授業を見直す

新課程に対応したカリキュラム作成の前に、改めて現在の授業を見直し、量対応ではなく、どう指導の質を高めていけばよいのかを考える。

## Q.新課程を機に考えるべき課題



出典/ベネッセコーポレーション「新課程に関するアンケート」(2009年7月)

多くの教師は、指導力を強化したいと思う一方、多忙さも課題ととらえている。新課程で「はじめて規定」がなくなることもあり、**授業の「量」を増やすのではなく、授業の「質」をどう高めるか**が課題。

# 1 高校での新課程のポイント

共通して身に付けるべき力の明確化（必修科目の設置）と、学校裁量の拡大

- 卒業単位数は74単位以上（現行課程を維持）
- 「共通必修科目」の設置
- 週当たりの授業時数が「30単位時間を超えて可」と明確化
- 「義務教育段階の学習内容の確実な定着」のための学習機会の設置を促進
- 「はじめて規定」廃止

# 2 中学校における新課程の課題

【P.6 中学校の課題】

変化と  
傾向

授業時数が週28時間から29時間となり、3年間で計105時間の増加

高校入試で、知識を活用し、「思考力」「表現力」を問う問題が出てきた

課題

学力格差が広がるのではないか

小テストの回数や宿題の量が増えるのではないか

# 3 大学入試センター試験の傾向

【P.8 入試分析】

英語… 実際のコミュニケーション場面への対応力を重視

数学… 新課程で正式な単元となる「整数の性質」の出題

物理… 「探求」のプロセスを重視

生物… 断片的な知識だけでなく、概念理解を求める出題

# 4 授業を見直す視点

【P.12 現場からの提言】

入試は結果であり、目標ではない。  
「自校の生徒の実情に合わせて詳細な目標を設定すること」が大事。



新課程は授業改善の絶好のチャンス。  
「3年間」の視野で授業法やカリキュラムを見直す。

東京都立西高校 寺島 求先生

岡山県立岡山大安寺高校 小山敬一先生



「出来る」授業から「分かる」授業へ。  
教師自身も楽しめる授業なら、生徒にも楽しさを伝えられる。



削られる内容も意識し、指導計画を組み直すこと。  
新課程は生徒に教科を好きにさせるチャンスにもなる。

兵庫県立神戸高校 稲葉浩介先生

福岡県立福岡高校 木村恒昭先生

